

院生研究活動状況一覧

2019年1月1日から2019年12月31日までの間に発表されたもので、
本人より申告されたもののみを記載した。

《教育基礎学専攻》

青柳翔也（日本教育史）

〈論文〉

- ・青柳翔也「1930-40年代における井上武士の音楽教育論の展開—東京高等師範学校附属小学校（国民学校）訓導としての思想と活動—」『筑波大学教育学系論集』（筑波大学人間系教育学域）第44巻第1号，2019年10月，pp.77-89.

〈学会発表〉

- ・青柳翔也「文部省編『新教育指針 第一部』（1946年）の成立過程とその理念—戦前・戦後における石山脩平の思想と行動に注目して—」教育史学会第63回大会，静岡大学，2019年9月29日．

〈その他 受賞など〉

- ・筑波大学大学院人間総合科学研究科 研究科長表彰，2019年3月25日．

阿部雅子（学校経営学）

〈学会発表〉

- ・阿部雅子「公立小中学校の学校事務職員のキャリア形成に関する課題と展望—校長職を経験する学校事務職員の事例を基に—」日本教育事務学会第7回大会，国土館大学，令和元年12月14日

石川敬史（生涯学習・社会教育学）

〈論文〉

- ・石川敬史「移動図書館成立の序論的考察：1940年代後半から1950年代前半における活動名称を中心に」『筑波大学教育学系論集』（筑波大学人間系教育学域）44巻1号，2019年10月，pp.91-103.
- ・石川敬史「戦後移動公民館の成立と展開：富山県と兵庫県を中心に」『図書館文化史研究』（日本図書館文化史研究会）36号，2019年9月，pp.127-160.
- ・石川敬史「高知県立図書館における自動車文庫の成立」『図書館界』（日本図書館研究会）70巻5号，2019年1月，pp.572-584.

〈学会発表〉

- ・石川敬史「八幡市における移動図書館史：自動車文庫と移動児童館車の活動を中心に」日本図書館文化史研究会2019年度研究集会，石川県立図書館，2019年9月15日．
- ・石川敬史「ともに活かし継承するために：資料の整理と利用の経験から」図書館文化史研究会2019年度研究集会・シンポジウム，石川県立図書館，2019年9月14日．
- ・石川敬史，安達一寿「戦後日本における移動図書館への期待：歌詞分析を通して」日本教育情報学会第35回年会，岡山理科大学，2019年8月25日．

〈その他〉

- ・石川敬史「地域の伴走者としての移動図書館へ」『みんなの図書館』（図書館問題研究会）510号，2019年10月，pp.2-10.

- ・石川敬史「書評・田井郁久雄著『前川恒雄と滋賀県立図書館の時代』出版ニュース社』『日本図書館情報学会誌』（日本図書館情報学会）65巻2号，2019年7月，pp.97-98.

江幡知佳（教育制度学）

〈論文〉

- ・高野雅暉・江幡知佳「米国における高大接続プログラムの類型化の試み—フロリダ州を素材として—」『筑波大学教育学系論集』（筑波大学教育学域）第44巻第1号，105-116頁，2019年.

〈総説・科研報告書等〉

- ・江幡知佳「国際バカロレアの活用に関する大学訪問調査報告書」筑波大学プロジェクト研究『筑波大学におけるEMの試行的実施に関する研究』第三次（2018年度）中間報告書』（筑波大学）2019年，総頁数：25，62-87頁.
- ・江幡知佳「第4節 ルーブリック評価と『PROG-H』のスコアの関連」田中正弘・津田成輔編『高崎高校のSSH活動におけるルーブリック・校内アンケートと河合塾の学び未来パス「PROG-H」の関連についての報告書』（筑波大学高等教育論研究室）2019年，総頁数：4，5-8頁.

〈学会発表〉

- ・Chika Ebata, “A Theoretical Analysis of the Introduction Process of IB in Japan and the U.S.” SRHE Newer Researchers Conference, Coldra Court, Celtic Manor, Newport, 2019-12.
- ・江幡知佳「米国フロリダ州における国際バカロレア・ディプロマプログラムの普及要因に関する研究—早修制度への位置づけに着目して—」日本教育制度学会第27回大会，宇都宮大学，2019年11月.
- ・江幡知佳「米国フロリダ州で国際バカロレアはなぜ急速に普及したのか」日本高等教育学会第26回大会，金沢歌劇座，2019年6月.

小山田建太（教育社会学／共生教育学）

〈論文〉

- ・小山田建太「不安定な学校生活を送る生徒を支えるための教育的対応に関する考察」『国立教育政策研究所紀要』第147集，2019年3月，pp. 111-126.
- ・長創一朗・岡本智周・青木結・小山田建太「共生社会・歴史認識・配分原理・社会的諦観に関わる社会的意識の分析—学歴と年齢層の観点による2018年調査データの検討—」『共生教育学研究』第6巻，2019年3月，pp. 61-76.
- ・小山田建太「準市場における事業評価の影響の検討—地域若者サポートステーション事業を事例に—」『日本教育政策学会年報』第26号，2019年7月，pp. 114-127.

〈総説・科研報告書等〉

- ・小山田建太「若者の多様なキャリアを承認する「自立」観—親子を対象とした高卒パネル調査インタビューより—」『東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ』No.111，2019年6月，pp. 1-15.
- ・小山田建太「若者の移行を支える地域若者サポートステーション事業に関する研究」『月刊地域ケアリング』2019年8月号，2019年8月，pp. 68-70.
- ・小山田建太・山口泰史・鈴木富美子「高卒14年目の相談ネットワーク，子育て，夫婦ペアデータからみた夫の家事・子育て—高卒パネル調査wave15の結果から—」『東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ』No.113，2019年11月，pp. 1-22.

(学会発表)

- ・ 小山田建太「若者の多様なキャリアを承認する「自立」観—親子のインタビューデータに着目して—」東大社研パネルシンポジウム2019, 東京大学, 2019年2月.
- ・ 小山田建太「地域若者サポートステーション事業の合理的展開と, 葛藤に関する一考察—支援職員へのインタビュー調査の結果から—」日本教育社会学会第71回大会, 大正大学, 2019年9月.

島埜内恵 (比較・国際教育学)

(論文)

- ・ 島埜内恵「フランスにおける『出身言語・文化教育 (ELCO)』プログラムの近年の改革動向—イタリアとポルトガルに焦点を当てて—」, 『浜松学院大学研究紀要』第15号, 2019年1月, pp.49-62.
- ・ 島埜内恵「『浜松市と大学との連携事業』に関する報告—小学生を対象とした外国語活動講座を事例に一」, 『浜松学院大学教職センター紀要』第8号, 2019年3月, pp.67-81.

(学会発表)

- ・ 島埜内恵「フランスにおける『出身言語・文化教育 (ELCO)』プログラムの実態—二国間協定締結国に焦点をあてて—」日本比較教育学会第55回大会, 東京外国語大学, 2019年6月9日.

大後茂雄 (教育組織開発論)

(論文)

- ・ 大後茂雄「大規模スポーツイベントに参加するボランティアの組織市民行動促進要因の研究—ボランティアリーダーのリーダーシップに着目して—」, 日本スポーツ産業学会, 2019年29巻3号 p. 3_161-3_175

張 信愛 (学校経営学)

(編著書)

- ・ 張信愛「第14章「チーム学校」論と学校経営」浜田博文編著『MINERVAはじめて学ぶ教職学校経営』2019年3月, ミネルヴァ書房, 216頁, 165-176頁.

浅井哲司 (人文科教育学)

(論文)

- ・ 浅井哲司「音声・文字提示型教材による話し合い事後指導方法の開発—学習者自身の音声が話し合いに与える影響の分析—」『国語科教育』(全国大学国語教育学会)第85号, 2019年3月, pp.14-22.

大脇和志 (社会科教育学)

(総説・科研報告書等)

- ・ 大脇和志「社会科教育における選挙—高等学校教科書にみられる2つの「政治」に注目して—」『平成29年度 公益財団法人教科書研究センター 大学院生の教科書研究論文助成金 論文集』(公益財団法人教科書研究センター), 2019年1月, 128p., pp.53-62.
- ・ 大脇和志「離島地域の学校におけるICTメディア活用の展望—鹿児島県・三島小中学校における取組を事例に一」『地域と教育 第18号 鹿児島県鹿児島郡三島村硫黄島』(筑波大学博士課程人間総合科学研究科教育学専攻「社会科教育学特講」調査報告, 井田仁康), 2019年9月, 81p.,

pp.37-54.

〈学会発表〉

- ・大脇和志, 唐木清志「子どもの政治意識の形成過程からみる小学校社会科政治教育の課題—質問紙調査に基づく政治的社会化研究の再検討を通して—」日本公民教育学会第30回全国研究大会, 九州大学伊都キャンパス, 2019年6月23日.
- ・吉見依里, 大脇和志, 須藤隆也, 小室嘉奈子「地方選挙の課題を体験的に理解するゲーム教材の開発」日本社会科教育学会第69回全国研究大会, 新潟大学五十嵐キャンパス, 2019年9月15日.

川上若奈 (道徳教育学)

〈学会発表〉

- ・※ T. Yoshida, W. Kawakami, K. Miyamoto, A comparative study of preschool education in Japan and Germany, 45th Annual Association for Moral Education (AME) Conference, Hotel Motif (Seattle, The United States of America), 9/11/2019.

勘米良祐太 (人文科教育学)

〈論文〉

- ・勘米良祐太「大学生の日本語表現における文法的不具合の分析」『浜松学院大学学習支援センター紀要』(浜松学院大学) 10号, 2019年3月, pp. 39-50.

〈学会発表〉

- ・勘米良祐太「明治35年中学校教授要目下における文法教育の「実用」化に関する試み—芳賀矢一の教科書の分析を通して—」, 筑波大学日本語日本文学会第42回大会, 筑波大学, 2019年10月5日
- ・勘米良祐太「植民地朝鮮における初等教育読本の形式—第2期『普通学校国語読本』(芦田恵之助編)を主たる対象として—」全国大学国語教育学会第137回大会, 宮城教育大学, 2019年10月26日

田中 怜 (教育方法学)

〈論文〉

- ・田中 怜「改革教育学の批判的継承としての学校実験『イエナープラン・ヴァイマル』(Schulversuch Jena-Plan Weimar) —生活との差異に基づく学校改革の構想とその実践—」『教育方法学研究』(日本教育方法学会) 第44巻, 2019年3月, pp. 61-72.
- ・田中 怜「学校と生活を媒介する『実践的学習』(praktisches Lernen)の構想とその問題—1980-90年代ノルトライン・ヴェストファーレン州の授業改革に注目して—」『カリキュラム研究』(日本カリキュラム学会) 第28号, 2019年3月, pp. 1-13.
- ・田中 怜「1980年代以降の西ドイツにおける教育政策の改革教育学化—ノルトライン・ヴェストファーレン州の枠組み構想『学校生活の形成と学校の開放』に注目して—」『筑波大学教育学系論集』(筑波大学教育学域) 第43巻2号, 2019年3月, pp. 25-37.

〈総説・科研報告書等〉

- ・田中 怜「文化プログラム」『筑波大学大学院 2018年度海外研究交流派遣プログラム (カザフスタン) 報告書』(筑波大学大学院人間総合科学研究科3専攻), 2019年3月, 84ページ, pp. 12-14.
- ・田中 怜「カザフスタンと日本の媒介項としてのドイツ教授学—『学校と生活の結合』をめぐる議論の境界の引き直し—」『筑波大学大学院2018年度海外研究交流派遣プログラム (カザフスタン)

報告書』(筑波大学大学院人間総合科学研究科3専攻), 2019年3月, 84ページ, pp. 24-27.

〈学会発表〉

- ・田中 怜「プロジェクト授業の中の『ヘンティッヒ・パラドックス』(Hentig-Paradoxon) —グロクゼー学校にみられる授業の政治化から個人化への変容過程—」筑波大学教育学会第17回大会, 筑波大学附属中・高等学校, 2019年3月9日.
- ・※Rei TANAKA. Development and Challenge of "multi-perspective lesson" in Germany: How it can be represent in the school's in high modern (complex) society? In: Innovation approaches in the preparing psychologists and pedagogs in universities of Japan and Kazakhstan. Abai Kazakh national pedagogical university. 2019.03.18.
- ・※Rei TANAKA. Development and Challenge of "multi-perspective lesson" in Germany: How it can be represent in the school's in high modern (complex) society? In: Contemporary trends of development of higher education: Problems and perspectives. Al-Farabi Kazakh national university. 2019.03.19.
- ・田中 怜「学校と生活の接続方法としての多視点的授業—『ヨーロッパ・プロジェクト』における多視点的・対話的な授業の実践と理論モデルの発展に着目して—」日本教育方法学会第55回大会, 東海学園大学, 2019年9月28日.

〈その他 受賞など〉

- ・「筑波大学教育学会研究奨励賞」筑波大学教育学会, 2019年3月.(受賞論文「PISA以降の一般陶冶(Allgemeinbildung)論における学校の役割規定—ベンナーによる陶冶・コンピテンシー二元論克服の試みを通して—」『筑波教育学研究』(筑波大学教育学会)第16号, 2018年3月, pp. 23-39.)
- ・「筑波大学学長表彰(学生表彰)」筑波大学, 2019年3月.

鄭一葦(人文学教育)

〈論文〉

- ・鄭一葦「日中の作文教育における「ジャンル」の取り扱い方—辞典と教科書を比較対象として—」『読書科学』(日本読書学会)第61巻第1号, 令和元年5月, pp. 38-50
- ・鄭一葦「ジャンルに関する認識の相違による文章表現指導の諸相」『人文学教育研究』(人文学教育学会)第46号, 令和元年12月, pp.17-36

〈学会発表〉

- ・鄭一葦「異なるジャンル認識の下で産出された文章に関する比較 —論理的文章を例として—」人文学教育学会研究発表会第50回, 筑波大学, 2019年6月
- ・鄭一葦「文章観の相違による文章ジャンルの取り扱い方の諸相」第137回全国大学国語教育学会, 仙台, 2019年10月
- ・鄭一葦「国語科文章表現指導におけるジャンルの取り扱い方に関する研究」人文学教育学会研究発表会第53回, 筑波大学, 2019年12月

花園隼人(数学教育学)

〈編著書〉

- ・花園隼人「算数科教育における教材研究の方法」清水美憲(編著)『初等算数科教育法』2019年3月, ミネルヴァ書房, 190, pp.119-130.

(論文)

- ・花園隼人「数学教育における数え上げに関する数学的対象の美的性質の感得の促進方法に関する事例研究—高校生ペアによる問題解決過程の分析—」『科学教育研究』（日本科学教育学会）第43巻4号，2019年12月，pp. 423-437.
- ・花園隼人「算数科授業における数学的対象の美的性質の感得過程—児童に意味づけられた「練り上げ」に焦点を当てて—」『日本数学教育学会誌，数学教育論究』（日本数学教育学会）第100巻112号，pp. 3-14.

(総説・科研報告書等)

- ・花園隼人「問題発見・解決能力の育成」藤田晃之・佐藤博志・根津朋実・平井悠介（編著）『最新 教育キーワード 155のキーワードで押さえる教育』2019年7月，321，pp. 26-27.
- ・花園隼人「学力調査」藤田晃之・佐藤博志・根津朋実・平井悠介（編著）『最新 教育キーワード 155のキーワードで押さえる教育』2019年7月，321，pp. 84-85.

(学会発表)

- ・花園隼人「数学的対象の美的性質の感得を観点とした小学校算数科教育課程の実証的評価—図形領域の内容構成に焦点を当てて—」日本数学教育学会第52回秋期研究大会，東京学芸大学，2019年11月16日.
- ・花園隼人「数学的対象の美的性質の感得を促す方法に関する一考察—感得過程に影響を与える数学的対象の特性の分析—」日本教材学会第31回研究発表大会，東京学芸大学，2019年10月19日.
- ・花園隼人「現実世界の問題解決を契機とする数学的探究を実現する教材の開発」日本科学教育学会第43回年会，宇都宮大学，2019年8月23日.

細田幸希（数学教育学）

(論文)

- ・細田幸希，「高等学校数学科における仮説検定に関する教材の開発：統計的有意性に焦点をあてて」，『日本教材学会第31回研究発表大会研究発表要旨集』，2019年10月，pp.68-69.
- ・細田幸希，「統計的推測を重視した統計的問題解決に関する一考察：データモデリング活動に着目して」，『日本数学教育学会第52回秋期研究大会発表集録』，2018年11月，pp.355-358.

(総説・科研報告書等)

- ・細田幸希，「海外の算数教育情報：データに基づく推測を取り入れた算数科の統計指導」，新しい算数研究3月号，新算数教育研究会，p.36-37，東洋館出版社，2019年.

(学会発表)

- ・細田幸希，「高等学校数学科における仮説検定に関する教材の開発：統計的有意性に焦点をあてて」，日本教材学会第31回研究発表大会，東京学芸大学，2019年10月19日-20日.
- ・細田幸希，「統計的推測を重視した統計的問題解決に関する一考察：データモデリング活動に着目して」，日本数学教育学会第52回秋期研究大会，東京学芸大学，2019年11月16日-17日.

前嶋匠（社会科教育学）

(編著書)

- ・前嶋匠「原発事故，あれから八年—『ゆうだい君の手紙』をあらためて読む』『歴史地理教育』，2019年10月，通巻900号，歴史教育者協議会，96p，pp.48-53.

(論文)

- ・前嶋匠「福島第一原発事故による自主避難者への住宅支援問題を考える授業実践～原発事故，あ

れから6年,「帰る／帰らない」家族会議～』『環境教育』(日本環境教育学会),通巻74号,2019年12月,pp.31-37.

〈総説・科研報告書等〉

- ・前嶋匠,科研費奨励研究(課題番号18H00054),『福島第一原発事故に向き合う教師のライフヒストリーと教材化の可能性』,2019年3月,p.230

〈学会発表〉

- ・前嶋匠「『構造的暴力』」の視点に立った公民科教材の開発原理—原発事故を中心とした公害問題の授業開発に向けて—日本社会科教育学会第69回全国研究大会,新潟大学,2019年9月14日

宮本慧(道徳教育)

〈論文〉

- ・宮本慧〈研究ノート〉「中国における学校の法教育:『道徳と法治』教科書に着目して」『社会科教育研究』2019年9月,129-139頁.

〈総説・科研報告書等〉

- ・宮本慧「Ⅱ 高等教育 11 社会人受け入れ状況」藤田照之編『最新教育データブック:119のデータで読み解く教育』2019年,初版,時事通信社,338頁,100-101頁.
- ・宮本慧「Ⅱ 高等教育 12 大学教員の評価と学生の授業評価」藤田照之編『最新教育データブック:119のデータで読み解く教育』2019年,初版,時事通信社,338頁,102-103頁.
- ・宮本慧「Ⅴ 生涯学習と社会教育 4 生涯学習・社会教育事業」藤田照之編『最新教育データブック:119のデータで読み解く教育』2019年,初版,時事通信社,338頁,218-221頁.
- ・宮本慧「Ⅴ 生涯学習と社会教育 5 民間カルチャーセンター」藤田照之編『最新教育データブック:119のデータで読み解く教育』2019年,初版,時事通信社,338頁,222-223頁.
- ・宮本慧「Ⅶ 世界で進む教育改革 1 今後の社会で求められる資質・能力」藤田照之編『最新教育データブック:119のデータで読み解く教育』2019年,初版,時事通信社,338頁,270-273頁.

〈学会発表〉

- ・宮本慧「現代の中国における『道徳と法治』」日本道徳教育学会,麗澤大学,2019年6月30日.
- ・※K. Miyamoto, A comparative study of moral education in Japan and China, 45th Annual Association for Moral Education (AME) Conference, Hotel Motif (Seattle, The United States of America), 8/11/2019.
- ・※T. Yoshida, W. Kawakami, K. Miyamoto, A comparative study of preschool education in Japan and Germany, 45th Annual Association for Moral Education (AME) Conference, Hotel Motif (Seattle, The United States of America), 9/11/2019.

村田 翔吾(数学教育学)

〈学会発表〉

- ・Murata, S. (2019). Meta-knowledge about definition: The case of special quadrilaterals. Proceedings of the Eleventh Congress of the European Society for Research in Mathematics Education (pp.300-301). Poster presentation (peer-reviewed). Utrecht, Netherlands: CERME11. February, 2019.
- ・村田翔吾(2019).「学校数学における定義と定義活動に関する一考察:事例分析を通して」.『筑波大学教育学会 第17回大会 発表要旨集』(pp.10-11).筑波大学附属中学校高等学校,2019年3月.

- ・ Murata, S. (2019). Fostering mathematical defining: Focusing on meta-definition. International Seminar of Research on Teaching and Learning Mathematical Proof. Oral communication. Tokyo, Japan. March, 2019.
- ・ 村田翔吾 (2019). 「数学教育における定義活動に関する研究の展開と課題」. 『日本科学教育学会第43回年会論文集』 (pp.487-490). 宇都宮大学, 2019年8月.
- ・ Murata, S. (2019). The functions of a hierarchical classification of quadrilaterals in Japanese textbook: Its presentation and limitation. In Rezat, S., Fan, L., Hattermann, M., Schumacher, J., & Wuschke, H. (Eds.), Proceedings of the Third International Conference on Mathematics Textbook Research and Development (pp. 275-280). Oral communication (peer-reviewed). Paderborn, Germany: ICMT3. September, 2019.
- ・ 村田翔吾 (2019). 「『三角形の合同』に関する定義活動の意義」. 『日本教材学会 第31回研究発表大会 研究発表要旨集』 (pp.66-67). 東京学芸大学, 2019年10月.
- ・ Murata, S. (2019). How definitions are introduced in Japanese textbooks? The Proceedings of the Second International Symposium on Mathematics Education (pp.68-69). Oral communication (peer-reviewed). Asian Center for Mathematics Education, East China Normal University, Shanghai, China: ACME2. November, 2019.
- ・ 村田翔吾 (2019). 「学校数学における定義活動の類型」. 『日本数学教育学会 第52回秋期研究大会発表集録』 (pp.437-438). 東京学芸大学, 2019年11月.

山本高広 (理科教育学)

〈総説・科研報告書等〉

- ・ 山本高広 「2018年度 静岡STEMアカデミー活動の振り返りと今後の活動」, 「2018年度 静岡STEMアカデミー 牧之原教室における教材開発と実践報告—ヘックス・バグ [ナノナイトロ] を用いたSTEM活動の実践—」 熊野善介・JST平成30年度ジュニアドクター育成塾事業『静岡STEMアカデミー報告書』(静岡大学) 2019年3月29日, 総ページ数: 97頁, 掲載ページ: 38-39頁, 51-57頁.

〈学会発表〉

- ・ 山本高広 「生物教育におけるシステム思考を基底とした推論の導入と指導」 日本科学教育学会第43回年会, 宇都宮大学, 2019年8月23日.
- ・ 塩嶋公輔・山本高広・森下将史・片平克弘 「理科授業における「アナロジーの性質」の教授に関する研究」 日本理科教育学会第69回全国大会, 静岡大学, 2019年9月22日.
- ・ 石川美穂・山本高広・片平克弘 「中学校における科学的な活動をふくめたSDGsの学習に関する研究」 日本理科教育学会第69回全国大会, 静岡大学, 2019年9月23日.
- ・ 塩嶋公輔・山本高広・森下将史・片平克弘 「アナロジーを用いた科学現象を説明する能力の向上に関する研究」 日本理科教育学会第58回関東支部大会, 山梨大学, 2019年12月7日.
- ・ 石川美穂・山本高広・片平克弘 「中学校におけるSDGsと科学の関連を深める学習に関する研究—SDGsを科学的に分析する活動に着目して—」 日本理科教育学会第58回関東支部大会, 山梨大学, 2019年12月7日.

津多成輔 (教育社会学／共生教育学)

〈論文〉

- ・ 津多成輔, 「性役割意識に影響を及ぼす要因の検討—性別・学歴・世代の交互作用効果に着目し

て一」『共生教育学研究』第6巻, 2019年3月, pp. 87-100.

〈学会発表〉

- ・ SAKAGUCHI Masayasu, TSUDA Seisuke, IKEDA Masafumi, YAMAMOTO Shinya, TOKUSHIMA Yuya, SAKAUE Hiroaki, IZUMIMURA Yasuji, A Study of the Development and Implementation of the Graduate-Level Teacher Training: In Collaboration with the Prefectural Programme, The 8th Japan-China Teacher Education Conference, Hyogo University of Teacher Education Kobe Harborland campus, 11. 2019.
- ・ 津多成輔, 「教師を取り巻く価値観・期待と大学進学をめぐる進路指導一僻地A高校に勤務する教師の語りから一」, 『日本教育社会学会第71回大会』, 大正大学, 2019年9月.
- ・ 津多成輔, 「教員の依拠する配分原理と教育行為・意識の関連」, 『日本高校教育学会 第27回研究大会発表』, 筑波大学文科系修士棟, 2019年7月.
- ・ 津多成輔, 「社会関係の移動履歴・居住地が進学希望地域に及ぼす影響一東北3県の高校生に着目した比較分析一」, 『日本高等教育学会第22回大会』金沢商工会議所, 2019年6月.

王 巖崧 (教育臨床学 / 共生教育学)

〈論文〉

- ・ Yansong Wang, ichiko Shoji (2019). Developing a School Attendance Reason Scale and its Relationship with Chinese Students' School Adjustment, *International Journal of School & Educational Psychology*, 7(1): 1-14. doi: 10.1080/21683603.2019.1582380 [Taylor & Francis Online], [Google Scholar]

〈学会発表〉

- ・ Yansong Wang, Ichiko Shoji (2019). Special needs education at high school in japan: focusing on the case of part-time high school, the 41th International Annual Conference of the International School Psychology Association, University of Basel, Basel, Switzerland